

# 唐代前期律令制下の 財政的物流と帝国編成

Financial Distribution and Structure  
of the Empire Under the Early Tang Code

渡辺信一郎

WATANABE Shin'ichiro

はじめに

①政治的中心—周辺構造の編成

②政治的中心—周辺構造と財政的物流編成の構造的特質

③開元二五年の財政転換—全国的物流編成の構造転換と帝国の解体

おわりに

## 【論文要旨】

唐代前期の軍制は、府兵衛士を兵種とする軍府州折衝府系統と防人を兵種とする諸州鎮戍系統との二系統の常備軍によって編成された。軍府州折衝府からの府兵衛士上番による宿衛中央軍の編成と諸州百姓の中から上番・徴募された防人・兵募による辺州都督府・鎮・戍、軍鎮等の辺境防衛諸軍の編成とは、独自の中心—周辺構造をもつ軍事編成である。この軍事編成は、中心を構成する兩京と周辺を形成する辺境とにおいて、それぞれに兵士と軍需物資の調達および輸送を必然化した。

前期唐王朝は、租税・徭役として収取される農民的剰余生産物・剰余労働を①入京（中央納入）、②本州納入、③外配（他州・辺境納入）の再分配過程を通じてこの課題を達成し、戸部尚書度支司を中央司令部とし、全国に四十箇所設置された都督府を集配拠点とする独自の財務運営並びに財政的物流編成を構築した。それは、本州で生産された財物を、本州の正役を輸送労働に動員し、指定された需要目的地まで直接に輸送するものであり、市場交換を排除して達成することを原則とした。それは、収取と再分配とが直接的に一致する財務運営であり、輸送労働のために全正丁の半数に及ぶ四〇〇万人の正役労働を動員して達成された。

この財務運営は、開元二一年の漕運改革、開元二五年の関中和糶法の成立、百姓からの徴兵制停止によって、本質的転換をとげる。正役の大半を構成した租税輸送労働が不必要になることにより、正役の備物納入への転換、および養兵経費捻出を必然化し、帝国内部領域の物流圏の自立化傾向を高めた。それは、やがて雇用労働・官健・商人を媒介とする北宋期の財政的物流への転換を準備するとともに、帝国の解体を準備することとなった。すなわち、軍事的拡大傾向—帝国化こそが、租調役体制と帝国の解体をもたらしたのである。

【キーワード】 財政的物流、帝国、供御財政、供軍財政、オイコス